

## コミュニケーション能力を育む英語活動の工夫

### ～ ロールプレイやスキットの場面の工夫を通して～

那覇市立松島小学校教諭 伊波 竜子

#### テーマ設定理由

国際化の進展に伴い、国際社会に貢献できる日本人の育成は重要な課題である。第15期中央教育審議会答申においても国際化に対応する教育を進める留意点に外国語によるコミュニケーション能力の育成が求められている。

那覇市は、平成15年度から3カ年間、文部科学省より市内小中学校全53校が研究開発学校の指定を受け、「小学校英語科における教育課程・指導方法の研究と小中9年間を見通した英語教育の実践」について研究を進めてきた。さらに、これまでの研究成果が評価され、平成18年度からは、新たに文部科学省から指定を受け、これまでの成果を踏まえた研究を継続することとなった。

本校においては、児童の英語への興味・関心や意欲を高め、コミュニケーション能力の育成を目指し、英語を教科として全学年に導入し、歌、チャンツ、ゲーム等の体験的な活動を中心とした授業を展開してきた。週1回45分の英語の時間においては、児童が楽しみながら英語に慣れ親しむ機会となり、英語活動への興味・関心を高めることにつながった。また、学級担任と英語指導員のそれぞれの役割を明確にすることにより、効果的なチームティーチングによる授業が展開できるようになってきた。

しかし、児童は英語活動には、喜んで取り組もうとするのだが、活動中に日本語が多くなり、児童同士の英語による受け答えが少なくなるという課題が出てきた。その原因として、活動中に必要な対話のインプットが十分ではなく発話への興味・関心・意欲を向上させることができなかったと考える。課題解決に向けて様々な場面で学んだ英語を使う経験ができるようにし、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせる必要があると考える。

そこで、英語を聞いたり、話したりする活動が十分に行われるように授業の流れや教材の取り上げ方を工夫し、前年度までに学習した言語材料を活用し、ロールプレイやスキットなどの臨場感のある活動を取り入れた授業を展開することが効果的ではないかと考えた。児童に身近な場面を設定し、対話を十分にインプットする工夫を行うことで英語による発話量の増大につながり、児童のコミュニケーションに対する積極的な態度や、英語を理解しようとしたり、英語で表現しようとしたりする姿勢を育成することができると考え本テーマを設定した。

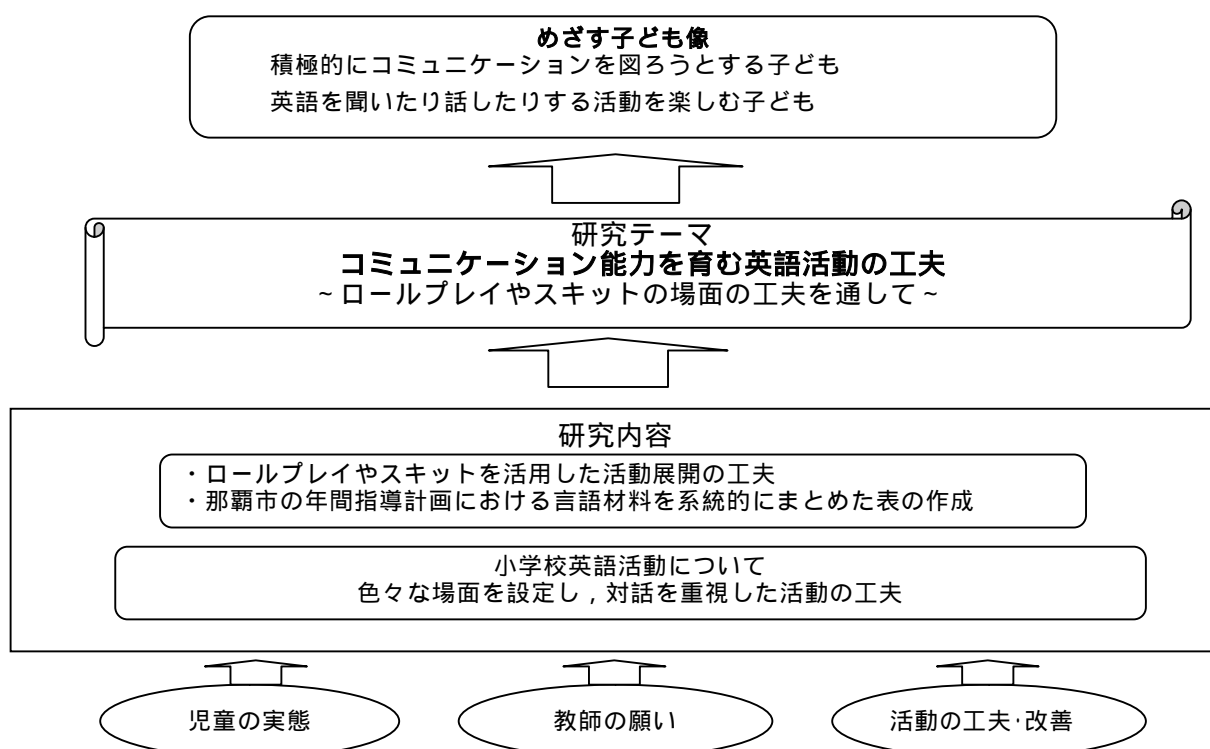
#### 研究目標

ロールプレイやスキットの場面の工夫を通してコミュニケーション能力を育むための学習過程や指導の工夫・改善について研究する。

#### 研究方針

- 1 児童が積極的にコミュニケーション活動に取り組む指導の工夫について研究をする。
- 2 那覇市の年間指導計画における言語材料を系統的に整理しロールプレイやスキットなどで取り上げるにより、活動展開の工夫・改善を図る。

## 研究構想図



## 研究内容

### 1 コミュニケーション能力を育む英語活動の工夫

#### (1) 小学校英語活動について

文部科学省による『小学校英語活動実践の手引き』(2001)では、小学校英語活動のねらいと活動について次のように述べている。

英語活動そのものが異文化に触れる体験となり、言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である。

言語材料については子どもの日常生活の中の身近な英語を扱うことに重点を置き、楽しさの中に英語に慣れ親しむことができるように工夫することが大切である。

身近で簡単な英語を聞いたり、話したりする活動を中心に行っていく。

子どもの主体的な活動への参加を促すことが大切で、実際の体験や疑似体験を通して英語に親しんでいけるよう配慮する。

つまり、小学校における英語活動では音声を中心とした活動を行い、疑似体験等を通して児童に身近な英語の表現に慣れ親しませるなど、子どもが英語に興味・関心を持ち、英語を聞こうとする、話そうとする姿勢を育む指導が大切であるということである。

本市でも国の方向性にもとづき、児童のコミュニケーションに対する積極的な態度の育成と、英語によるコミュニケーション能力の育成について研究を進めている。本市では、音声重視の指導を、授業の中でのなるべく英語のみを使用し、児童・生徒にできるだけ多く英語を聞き取る機会を与えることとしている。活動についてはゲームやロールプレイなどの体験的な活動を英語の指示の下で楽しむこととしている。指導方針としては、対話、会話を重視し、「触れる・慣れる・親しむ」をモットーとした学習過程の中で体験を通して語句や英文を自然に習得させることとしている。

(2) 活動を設定するにあたって

『小学校英語活動実践の手引き』によると、活動の設定について次のように述べている。

子どもが楽しく自然に英語を話せるような活動とする。

教師は本時の中心のねらいを明確にして活動を設定する。

言語習得の流れに沿って英語に出会わせていく。

子どもはたつぷりと英語を聞き、繰り返して発話することにより、英語の表現に慣れ親しみ、場面に応じた表現を選ぶようになってくる。年間指導計画の中から、場面に応じた言語材料を系統的に整理し、子どもが易しい英語で楽しく活動でき自然に英語によるコミュニケーション力が身に付くような指導の工夫が重要であるとする。

## 2 ロールプレイやスキットの場面の工夫をした活動について

(1) 対話や会話を重視した活動について

場面に応じた英語を発話しようとする意欲を高めるには、臨場感のあるロールプレイやスキットなど対話・会話を重視した活動を取り入れることが効果的であるとする。そこで児童が楽しんで取り組む対話や会話を重視した活動についてまとめた。

表1 対話・会話を重視した活動

活動・ねらい	活動内容 留意点	活動の工夫 子どもが楽しむ活動例
<b>ロールプレイ</b> ・「学校で」、「ペットショップで」のように場面を設定し、英語の表現に慣れる。	ロールプレイとはある役割になりきって演じるものである。 例「買い物ごっこ」買う子どもと物を売る子どもがそれぞれ役割を決めて演じる。 ロールプレイを行う際は、子どもが興味を感じるものであり、子どものまわりに身近に起こりうるような場面や役割の設定を行う必要がある。 子どもにとって人気の高い活動の一つなので、他の場面でも使える表現を選んで楽しむことが望まれる。	・「友達の家で」のように子どもに身近な場面を設定し、 “Do you like a cat?” “Yes, I do./No, I don’t.” などの対話を楽しむ。 買い物ごっこ・レストラン・電話・道案内など
<b>スキット</b> ・英語を使って自己表現をする。	スキットはちょっとした内容を含んだ短い劇である。場面を設定して子どもたちの日常のやりとりを劇化して表現したり自分たちで考えて創り出したりする。 場面を設定し与えられたセリフを部分的に変えたり、場面のみを与えて、自由に創作させたりする。 子どもの努力や積極性を認めるために発表の場を大切にする。	・「動物園で」のように子どもに身近な場面を設定し、 “What animal do you like?” の質問に対して、 “I like ~.” と自分の考えで答える。 子どもに身近な場面や子どもがよく知っている絵本、昔話など。

(2) 場面に応じた系統的な言語材料

言語材料は子供の発達段階に応じた題材であることが大切である。低学年と高学年の児童が同じ言語材料で同じ活動をすると、難しすぎたり、退屈であったりする場合がある。児童が興味・関心を持続できるように同じ題材においても活動展開を工夫する必要がある。また、前の学年で扱った言語材料についても系統性のある単元においては、繰り返し指導する必要があるとする。小学校

の英語活動は言語の習得をねらいとするものではないが、系統的な言語材料に繰り返し触れる事により場面に応じた英語表現に慣れていくと考える。

表2・表3では那覇市の年間指導計画の題材一覧表をもとに場面に応じた言語材料を系統的にまとめた表を作成し指導に活用できるようにした。

表2 言語材料を系統的にまとめた表 (動物園やペットショップなどの場面)

学年	主な言語材料	単元
1年	What's this? It's a dog. cat / cow / lion / pig / monkey / dog	・動物
2年	What animal is this? It's a dog. Do you like dogs? Yes, I do. No, I don't. cat / rabbit / snake / panda / elephant / tiger / lion / hippo / pig / hippo / cow / horse monkey / dog	・動物たち
3年	Do you have a dog? Yes, I do. No, I don't. cat / bird / hamster / rabbit / dog	・ペット
4年	What animal do you like? I like dogs. dog / cat / cow / lion / pig / monkey / horse / panda elephant / mouse / bear / chicken / tiger / hamster	・動物

表3 言語材料を系統的にまとめた表 (買い物の場面)

学年	主な言語材料	単元
1年	What fruit do you like? I like apples. Apple / orange / banana / grape / cherry / strawberry What's this? It's a tomato.	・くだもの ・やさい
2年	What's this? It's a tomato. tomato / onion / carrot / pumpkin / potato / cucumber / corn / cabbage / spinach / What do you like? I like tomatoes. tomato / onion / carrot / pumpkin	・やさい大好き
3年	May I help you? Yes, bananas, please. Here you are. Thank you very much.	・買い物
4年	May I help you? I want a cake. How much? 3 dollars. fruit : apple / orange / grape / melon / peach / pineapple vegetables : tomato / onion / pumpkin / carrot / cucumber	・買い物
5年	May I help you? ~ please. What size? How much is it? It's ~ dollars. Here you are. Thank you.	・ピザを買おう
6年	May I help you? One hamburger and two orange juice, please. Which size do you want? Regular size, please. How much? It's ~ dollars. To drink here or to go? small size / large size / french fries / regular size	・買い物

### (3) 自作 DVD の作成 , 活用について

ビデオや DVD などの視聴覚教材を利用することにより児童は場面に応じた英語の表現を音声と映像で体験することができ、繰り返し英語表現に触れることにより、音声に慣れ親しみ、場面で使用する言語材料を確認できる。

そこで表2をもとに、「動物」単元で扱う言語材料を使用して DVD を作成した(表4)。児童に身近な JTE や担任、専科の教師が登場人物として出演し、児童が楽しく視聴することにより、興味、関心が高まり意欲的に英語活動に取り組むであろう。

ロールプレイやスキットなどの活動を始める前や、授業のまとめとして学んだ言語材料の復習を行う時など効果的に活用できる。

表4 DVD の内容の一部

A: Oh, do you have a dog?  
B: Yes, I do. Do you like a dog?  
A: No, I don't.  
B: Do you like a cat?  
A: No, I don't.  
B: Do you like a rabbit?  
A: No, I don't.  
B: What animal do you like?  
A: I like a pig.  
B: Oh, you like a pig.

(4) スキットを活用した活動展開例

ロールプレイやスキットなどの活動において、児童が英語を聞いたり話したりする機会を多く体験できるように支援することが大切である。また、場面に応じた英語表現に親しめるよう、活動展開の工夫や、教材、教具の工夫が必要である。そこで、スキットを活用した学習展開例を作成した。

表 5 スキットを活用した活動の展開例

授業の流れ	学習活動	教師の支援	留意点 評価
Greeting	1 はじめのあいさつをする。	英語であいさつをして雰囲気作りをする。	絵カードの準備。
Warm up	2 天気や日付、時刻の確認をする。	担任が英語で質問する。 (JTE や AET と協力してやってもよい。)	
	3 English song を歌う。		
Review	4 本時の題材と関連のある既習の言語材料を復習する。	簡単な言語材料から難しい言語材料へと聞かせる。	題材と関連のある歌があると意欲を高める。
Main Activities	5 本時の題材の新しい言語材料を知る。 6 英語の練習をする。 ・新しい言語材料の練習をする。 ・スキットのセリフの一部を変えて繰り返し聞いたり話したりする。 7 希望者は、JTE (HRT) とスキットをしたり、友だち同士でスキットをしたりして発表する。 8 グループごとにスキットを行う。	担任と JTE や AET でスキットをして見せる。 全体で何度も練習させてからグループで練習させる。  ボランティアを募ってスキットを発表させる。	
Wrap-up	9 本時のスキットで使った英語の表現を復習する。	場面を設定し、与えられたセリフを部分的に変える。 ・戸惑っているグループに支援する。 ・個に応じた声かけをする。 ・児童をほめる。	相手に質問したり相手の質問に答えたりとコミュニケーション活動を楽しんでいる。 コミュニケーション力 評価方法 ・ふり返しカード ・観察
	10 今日の活動をふり返る。	“Very good.” “Excellent.” “Good job.”	
	11 あいさつする。	単元の言語材料の復習をさせる。 児童をほめる。 次時の予告をする。	

## 授業実践

### 1 単元名 動物（4年）

### 2 題材名 動物大好き

### 3 指導目標

- (1) 友達とコミュニケーションすることを楽しむ。
- (2) 前年度までの言語材料を使って動物についての色々な場面での対話文に慣れ親しむ。

### 4 言語材料（表2に記載のため省略）

### 5 単元について

#### (1) 題材観

本題材「動物大好き」は、児童にとって身近で、親しみやすい題材である。1年生では、動物を示す単語を知り、2年生では、「～（動物）は好きですか？」の対話、3年生では「ペットを飼っていますか？」の対話などを学習してきた。4年生では「何の動物が好きですか？」について聞いたり答えたりする学習内容となっている。また、単元として動物を学習するのは本学年が最後なので、「動物」の英語活動のまとめとして、児童にとって今までに学んだ言語材料を使って、コミュニケーションを図ることの喜びを体感させられる題材であるとする。

#### (2) 児童観

那覇市は文部科学省指定の研究開発を進めてから4年目となる。4年生の児童は、1年生の時からHRTとJTE、AETでチームティーチングを組んで計画的に進めてきている。そのため英語活動への興味関心が高く、多くの児童が英語活動を楽しんでいると感じている。アンケートによると、本学級では、100%の児童が「英語の授業が楽しい」と答えており、毎週1回の英語学習を楽しみにしている。その理由として「ゲームや歌が楽しい」と感じていること、「英語をもっと聞けるようになりたい」、「話せるようになりたい」という意欲を持っていることなどがあげられる。しかし、「先生の話す英語の意味が分かる」「できるだけ英語を使って話そうとしている」と答えた児童は70%程度にとどまっている。その理由として、授業の中で英語を聞いたり話したりする活動に自信が持てず積極的になれないのではと推測される。児童が英語を聞いたり、話したりする活動を楽しむことができるよう授業の展開の中で、場面の設定を工夫する必要がある。

#### (3) 指導観

「動物」の単元は4学年までとなっているので、今までに学習した動物に関する言語材料を取り上げ、易しい英語から難しい英語へと繰り返し慣れ親しむことにより児童の英語活動への意欲を高めたい。ロールプレイやスキットの中で場面を工夫し、英語によるコミュニケーションを楽しむ活動を取り入れ、児童が主体的に取り組む活動ができるよう工夫していきたい。授業の中では指導者なるべく英語のみを使用し、児童にできるだけ多く英語を聞き取る機会を与え、知っている英語の表現を手がかりに集中して聞こうとする姿勢を育てたい。また、ロールプレイやスキットなどを通して疑似体験的活動に取り組ませ、簡単な英語の質問に対して自分の考えで答えようとする態度を育てたい。

学んだ言語材料を使って場面に応じた対話に十分に慣れ親しむ事により、積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする姿勢や英語を聞いたり話したりする活動を楽しむ態度が育まれると考える。

## 6 指導計画と評価計画

時数	目標	活動内容	授業形態	評価
1 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習内容を知り，学習の見通しを持つ。</li> <li>動物の言い方に慣れ親しむ。</li> <li>「動物を飼っていますか。」の対話に慣れ親しむ。</li> </ul>	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の言語材料を使ってクイズをする。</li> <li>3年生の言語材料を使って，ロールプレイをしたり，ゲームをしたりする。</li> </ul>	HRT，JTE で T.T	単元のねらいを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</li> <li>英語を聞いたり，話したりする活動を楽しむ。</li> <li>コミュニケーション力</li> </ul>
2 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の対話に慣れ親しむ。</li> <li>「～（動物）が好きですか。」の対話に慣れ親しむ。</li> <li>簡単な英語を使って，ロールプレイを楽しむ。</li> </ul>	前時の復習をする。 2年生の言語材料を使ってロールプレイをする。 グループごとにペープサートを使ってゲーム形式で行う。	担任単独	英語を使ってコミュニケーションを楽しんでいる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</li> </ul>
3 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の対話に慣れ親しむ。</li> <li>好きな動物の聞き方と言い方に慣れ親しむ。</li> </ul>	前時までの復習をする。 4年生の言語材料を知る。 動物園の場面を設定しグループごとにスキットをする。	HRT，JTE で T.T	簡単な質問に対して，自分の考えで答えようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション力</li> </ul>
4 時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して，英語によるコミュニケーションを楽しむ。</li> <li>英語で好きな動物を質問したり，答えたりする活動に慣れ親しむ。</li> </ul>	本時の活動内容を知る。 教師の自作 DVD を見る。 <b>「動物ランドへ行こう。」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物園やクイズコーナーなどがある amusement park の場面を設定し，スタッフと客にわかれて活動する。</li> <li>グループごとに，1年から4年までの言語材料を使って，クイズやロールプレイ，インタビュー活動をする。</li> </ul>	HRT，JTE で T.T	マナーを守って活動し，コミュニケーション活動を楽しんでいる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</li> <li>相手に質問したり，相手の質問に答えたりと相手との受け答えを楽しんでいる。</li> <li>コミュニケーション力</li> </ul> 評価方法 観察，ふり返しカード

## 7 本時の学習

(1) 題材名 動物ランドへ行こう。

(2) 目標

友だちと協力して，英語によるコミュニケーションを楽しむ。

英語で好きな動物を質問したり，答えたりする活動に慣れ親しむ。

(3) 授業仮説

Review や Main Activities の場面で，前年度までの言語材料を活用し，多様な疑似体験的な場面の設定を工夫すれば，児童は英語で聞いたり発話したりする喜びを体感し，英語活動への興味・関心が高まり，コミュニケーション活動を楽しむであろう。

(4) 本時の展開

	学習活動	教師の支援	評価 留意点
Greeting	1 はじめのあいさつをする。 Good morning. How are you?	英語であいさつをしてクラスの雰囲気作りをする。	ルールやマナーを守ってコミュニケーションを楽しんでいる。
Warm-up	2 歌を歌う。 「 Old Macdonald Had a Farm」	グループで答えさせる。  みんなで楽しく歌う。	関心・意欲・態度 ・観察・ふり返しカード
Review	3 今日の学習の流れを確認する。	今日は「動物」単元のまとめであることを確認する。 DVD の準備をする。	聞いている内容を大まかに理解している。 コミュニケーション力 ・ふり返しカード
Main Activities	4 今までに学習した言語材料を扱った、自作 DVD「動物大好き」を見る。 5 「動物ランドへ行こう。」 本時の活動内容を確認しながら既習の英語表現を復習する。  6 「動物ランドへ行こう。」 ・動物園やクイズコーナーなどがある amusement park の場面を設定し、スタッフと客にわかれて活動する。 <b>〈クイズコーナー〉 クイズ</b> ・1年生の言語材料を使用する。 S: “What’s this?” C: “It’s ~.” <b>〈ペットコーナー〉 ロールプレイ</b> ・3年生の言語材料を使用する。 S: “Do you have ~” C: “Yes, I do./ No, I don’t.” <b>〈ペープサートコーナー〉 スキット</b> ・2年生の言語材料を使用する。 S: “Do you like ~?” C: “Yes, I do / No, I don’t” <b>〈動物園コーナー〉 スキット</b> ・4年生の言語材料を使用する。 S: “What animal do you like?” C: “I like ~.”  ・前半終了後にスタッフと客が役割を交替し、後半の活動を始める。 7 活動を終了してもとの場所に戻る。	HRT と JTE でデモンストレーションをし、活動のルールやマナーについて説明する。 スタッフと客が前半と後半で交替するよう指示し、活動をはじめさせる。 ・4つのコーナーに分かれて活動させる。 ・今までに学習した言語材料を使ってコミュニケーションを楽しむよう児童を励ます。 “Let’s try.” ・コーナーを回って戸惑っているグループに支援する。 ・グループで協力し合って答えるよう声かけをする。 “Help each other.” ・コミュニケーション活動の苦手な児童に支援する。 “It’s O.K.” “Don’t mind.” ・児童を励ましたり児童の努力をほめたりする。 “Good job.” “Very good.” 時間を知らせる。 (前半終了)  時間を知らせる。 (後半終了) “Come back to your position.”	マナーを守って活動し、進んでコミュニケーション活動を楽しんでいる。 関心・意欲・態度 ・観察・ふり返しカード  影絵クイズ用の絵カードの準備  ぬいぐるみの準備  ペープサートの準備  動物園の絵シートの準備  親しんだ言葉を用いて発話している。 コミュニケーション力 ・ふり返しカード ・観察
Wrap-up	8 今日の活動をふり返る。  9 感想を発表する。  10 あいさつをする。	グッドマナー賞をあげる。 本時の活動で良かったところを誉める。 ・児童の感想を聞く。  次時の予告をする。	



## 結果と考察

### 検証 1

単元の導入時に、前年度までの言語材料を活用した活動展開の工夫を図れば、英語活動への意欲が高まり、英語でのコミュニケーション活動を楽しむであろう。

#### 【手立て 1】前年度までの言語材料を活用した活動展開の工夫において

本研究では、那覇市小学校英語年間指導計画題材一覧表から「動物」単元の前年度までに学んだ言語材料を抜き出し、系統的な言語材料表を作成した。それを指導計画の中で取り上げ繰り返し指導し、慣れ親しませた。それにより、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の変容について見取る。

#### 【結果】

図 1 と図 2 は本単元の前後に実施したアンケートであるが、「英語を今よりもっと話せるようになりたい。」と答えた児童が 90% から 100% に増え、「英語を今よりもっと聞けるようになりたい。」と答えた児童は 93% から 100% に増えた。英語を聞いたり話したりすることに対して児童の意欲は向上している。既習の言語材料を 1 時目、2 時目とだんだん数を増やし計画的に繰り返し指導していく中で児童は、学んだ英語表現に自然に慣れ親しみ、興味・関心を持続させながら活動していた。

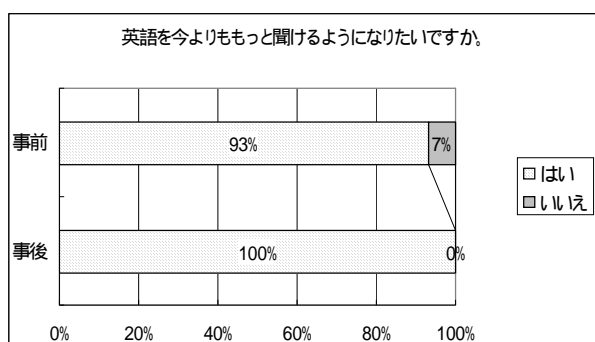


図 1

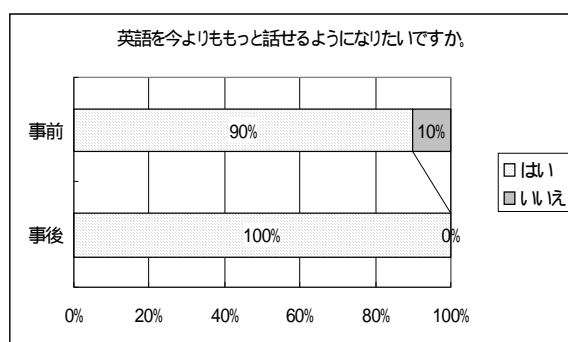


図 2

#### 【考察】

本単元において児童は英語活動の導入の場面で今までに学んだ易しい英語から聞いていくので、アクティビティーで行う活動に自信を持って取り組むことができたのではないかと考える。

表 6 は 2 時目終了後の児童の感想である。多くの言語材料を使用してコミュニケーションを楽しんだ様子が伺える。児童は今までに学んだ色々な英語表現を活用することで英語活動への興味・関心を高めることができたと言える。

前年度までに学習してきた言語材料を使用して英語によるコミュニケーション活動を行うこと

表 6

- ・たくさんの英語を知って楽しかったです。
- ・いろんなことを話して、Good job チケットをもらったので、うれしかったです。
- ・手はあげられなかったけど、先生にいろいろ教えてもらってとても楽しかったです。
- ・動物についての英語がいっぱいわかりました。
- ・もっと、たくさん動物のことを英語で話したいです。
- ・ぼくはもっと動物の英語を勉強したいです。

は、児童にとって英語をもっと聞きたい、話したいという知的好奇心を満たしていると捉えられる。このように、児童は「動物」の単位の中で前年度までに学習してきた言語材料を効果的に振り返ることにより、英語を聞くことや話すことに自信を持ち、よりいっそうコミュニケーション活動への関心・意欲・態度が高まったと考える。

## 検証 2

ロールプレイやスキットにおいて児童に身近な場面の設定をすれば、英語活動に慣れ親しみ、進んで英語で質問したり答えたりするであろう。

### 【手立て 2】ロールプレイやスキットの工夫について

本単元では、写真 1 や写真 2 のように児童が実際にその場にいるような感じが味わえるような教材、教具（ペープサートや動物園の絵シートなど）を作成しスキットに活用した。また、単元で扱う言語材料を使用して DVD を作成し、



写真 1 ペープサート



写真 2 動物園シート

言語材料を使う場面をくり返し映像で見ることができるようにした。

場面については教室の中で 4 つのコーナーを作り、動物園での対話の場面やペットを飼っている友だちの家での対話の場面など児童に身近で興味・関心の高い場面を設定し、Review や Activities の中でロールプレイやスキットなどを通して臨場感のある活動展開を実践した。

これらの活動を通して、児童が英語を聞き取ろうとしたり、英語を使って表現しようとしたりする「コミュニケーション力」について変容を見取る。

### 【結果】

単元の前後に児童にアンケートを実施したところ、「先生が話す英語を聞いて意味が分かる。」（図 3）と答えた児童は 66% から 86% に増えた。「英語の授業中にできるだけ英語を話そうとしている」（図 4）と答えた児童は 72% から 93% に増えている。児童の英語を聞いたり話したりする意欲は高く、ほとんどの児童が教師の話す英語を理解しており簡単な質問に対しても自分の考えで答えようとしている。英語の授業中においても本単元の導入時よりも 3 時目や 4 時目の活動の 때가、英語での指示や話を集中して聞こうとする姿勢や積極的に発話しようとする様子が見られた。

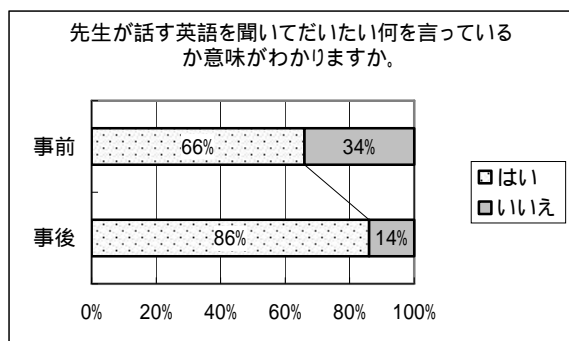


図 3

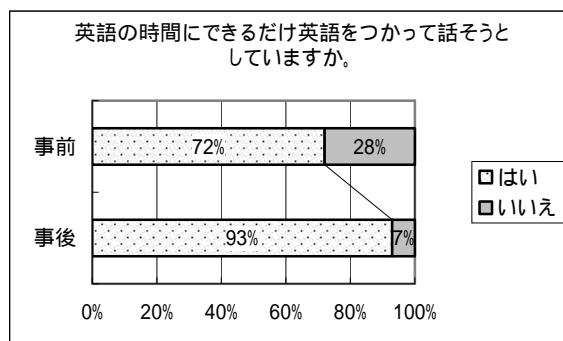


図 4

## 【考察】

場面を設定し、英語で指示を出して活動をする際、児童が容易に場面の把握ができるような指導の工夫が必要である。授業の中で教師が英語を使って活動を進める際、児童にとって音声のみでは理解が難しい場合がある。そのような時、教材教具を活動の場面に合わせて工夫して活用することにより、児童は、英語の文や言葉を大まかに理解できるようになると考える。

児童は、教師自作の DVD で活動の場面を把握したり、実際の場面を想定しやすい教材・教具を使ってデモンストレーションなどを行ったりすることにより、学んだ英語表現を使用する場面と音声とが一致でき、英語を聞こうとする意欲が高まったと考える(写真3)。そのため「英語を聞き取ろうとするコミュニケーション力」が向上したと考える。



写真3

また、実際の場面を想定してロールプレイやスキットを行うことにより児童は親しんだ言葉を使って、意欲的に発話したと考える。検証授業終了後の児童の感想(表7)から、多様な場面で英語での受け答えを楽しんだ様子が伺える。図5の検証授業終了後の振り返りカードからは、児童が授業で進んで発話しようとした姿勢も伺える。

それにより、積極的にコミュニケーション活動に取り組み「英語を話そうとするコミュニケーション力」が向上したと考える。

表7

### 検証授業終了後の児童の感想

- ・動物ランドでスタッフとお客になって、英語を話して楽しかったです。
- ・「動物を飼っていますか」の劇がたのしかったです。
- ・動物ランドで4つのことができておもしろかったです。
- ・ペープサートを使ってやると話しやすいです。

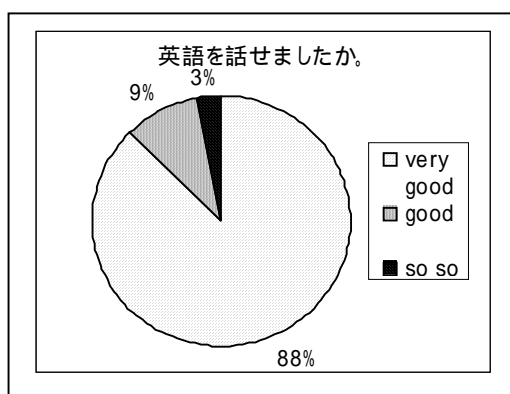


図5

このように、児童は実際に起こりうる場面の中で慣れ親しんだ言語材料を使ってコミュニケーションを楽しむことにより、自分の考えを表現する充実感を味わうことができたと考える。今までに学習してきた言語材料を使用し、幅広いコミュニケーション活動を楽しみ、臨場感のあるロールプレイやスキットなどの活動を展開することにより、進んで英語を聞いたり、話したりする「コミュニケーション力」が育成されたと考える。

しかし、変容の見られなかった児童が10%程度いた。それは、音声と場面とをイメージさせる手立てが弱く、まだ英語を聞いたり話したりする活動に自信が持てないのではないかと考える。今後は、アクティビティーの時に励ましたり、発話がうまくできたときに誉めてあげたりするなどして、個に応じたきめ細かな支援をしていく必要がある。

## 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 那覇市の小学校英語年間指導計画題材一覧表をもとに、言語材料を系統的に活かした指導をすることにより、児童のコミュニケーション活動への意欲が高まった。
- (2) 教材、教具を工夫して場面と音声をつなげる活動を行うことにより、児童の英語を聞き取ろうとする力が向上した。
- (3) 臨場感のあるロールプレイやスキットを通して、児童の英語を使って表現しようとする力が向上した。

### 2 課題

- (1) 年間指導計画において系統性のある言語材料を使用した指導計画の工夫・改善。
- (2) 英語を聞いたり、話したりする活動において児童が目標を持って、活動に取り組めるような評価の工夫。

## 《主な参考文献と引用文献》

「小学校英語活動実践の手引き」	文部科学省	開隆堂出版株式会社	2002
「小学校英語教育の手引」	影浦 功	明治図書	1997
「小学校英語活動マニュアル」	影浦 功	明治図書	2001
「明日の小学校英語教育を拓く」	松川 禮子	アプリコット	2004
平成18年度小学校英語学習指導案例集	那覇市教育委員会		2006
研究開発実施報告書（3年次）	那覇市教育委員会		2005